

香取市地域公共交通協議会

(第16回協議会資料)

目次

議事1 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について（協議）

1) 事業評価とは

- (1) 地域公共交通確保維持改善事業と事業評価 1
- (2) 事業評価の流れ 1
- (3) 評価項目 2

2) 事業評価の実施

- (1) 確保維持事業（地域内フィーダー系統確保維持）. 3
- (2) バリア解消促進等事業（バリアフリー化設備等整備）. 15

議事2 バス乗降調査及びアンケート調査について（報告） 17

議事1 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について（協議）

1) 事業評価とは

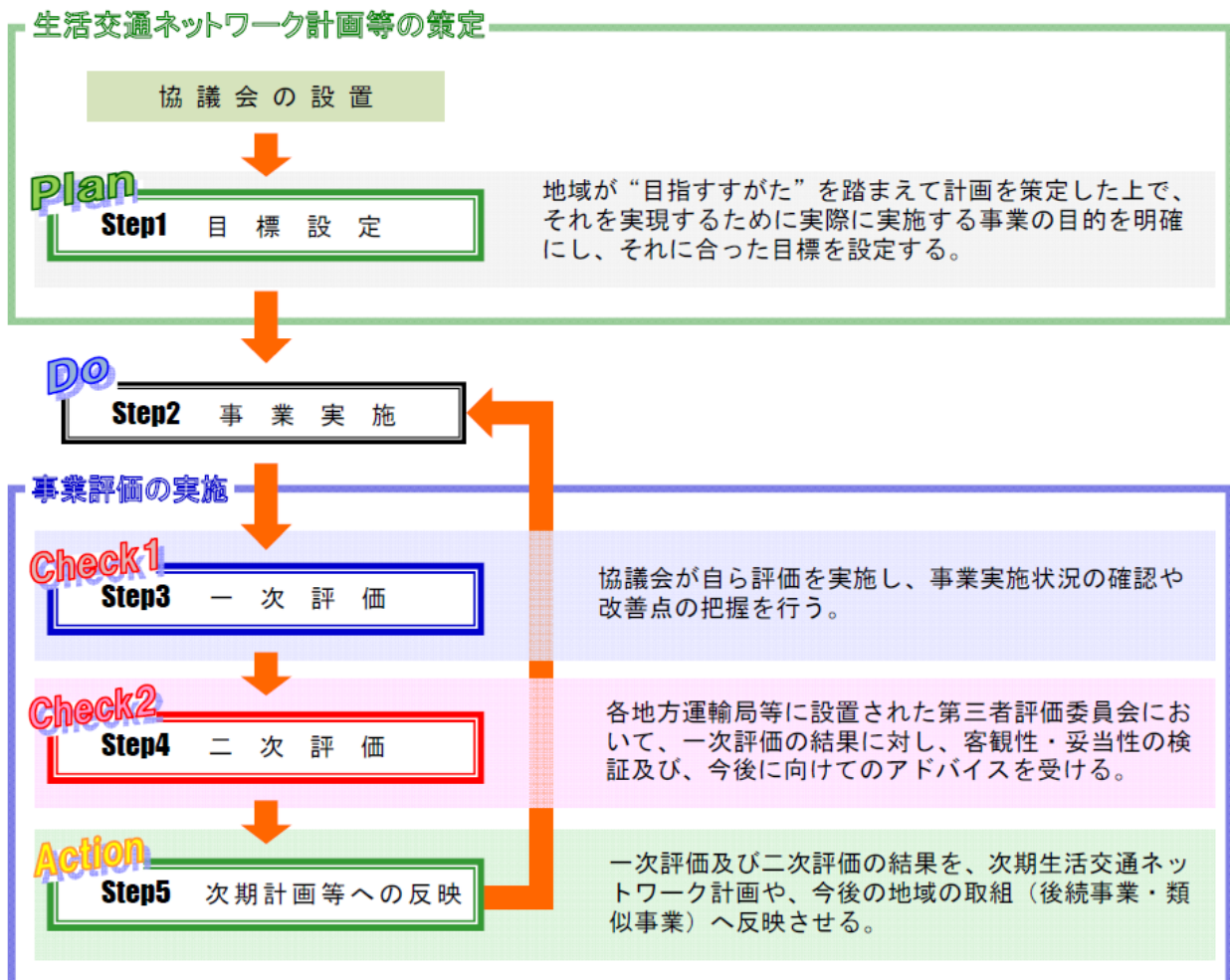
(1) 地域公共交通確保維持改善事業と事業評価

香取市では地域公共交通確保維持改善事業を活用して、①小見川循環バス（活性化再生総合事業 H21. 10～H24. 3、確保維持事業 H24. 4～）及び小見川乗合タクシーの運行（確保維持事業 H25. 10～）や②福祉タクシーの導入（バリア解消促進等事業 H25. 4～H26. 3）を行ってきた。

本事業は、地域公共交通の確保・維持を図るとともに、地域公共交通の改善に向けた取組を国が支援する制度であるが、これらの取組は一過性のものではなく、継続的な実施が求められている。地域が実施した事業の内容を振り返って、目標の達成状況などを評価・分析し、次の取組に反映していくという継続的な取組が重要なことから、国土交通省では、それらの取組を「事業評価」として制度化した。

事業評価とは、地域公共交通確保維持改善事業を活用した事業について、次年度ないし将来の事業をより効果的・効率的に実施するために事業の実施状況等を振り返り評価するもの

(2) 事業評価の流れ



※一次評価は、1 月末日までに関東運輸局へ報告します。継続的事业である「確保維持事業（小見川循環バス・小見川乗合タクシー）」は二次評価が行われます。（原則隔年）なお、単年度事業である「バリア解消促進等事業（福祉タクシー導入）」は一次評価のみとなります。

(3) 評価項目

地域公共交通確保維持事業及び地域公共交通バリア解消促進等事業（以下「生活交通ネットワーク計画に基づく事業」という。）の評価については、運行系統、離島航（空）路、施設等の別ごとに、以下の評価項目について実施することが原則とされており、具体的には、「地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価実施細目」に定められた様式に基づいて評価を行い報告することになる。

「地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価実施細目」から抜粋

①前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況

過去に実施した類似事業又は先行事業の評価結果を反映させた場合は、その事業評価結果をどのように反映させたのかを明らかにすること。

②事業実施の適切性

生活交通ネットワーク計画に基づく事業が適切に実施された（されている）か、評価を行うこと。計画どおり実施されなかった（されていない）場合には、理由等を明らかにすること。

③生活交通ネットワーク計画における目標・効果の達成状況

生活交通ネットワーク計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成された（達成できる見込み）か、設定した目標ごとに分析を行うこと。目標・効果が達成できなかった（達成できない見込み）場合には、理由等を分析の上明らかにすること。

④事業の今後の改善点

実施した事業について改善点があるかどうかを、事業の目的の達成状況を考慮した上で検証すること。

必要に応じて、上記の検証結果を踏まえて地域における今後の取り組みでの具体的な改善策（又は改善の方向性）を検討すること（改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く検討すること。）。特に、地域公共交通確保維持事業においては、評価結果を生活交通ネットワーク計画にどのように反映させるか、方向性又は具体的な内容を検討すること。

併せて、より適切な目標設定について検討すること。

※なお、上記③について、生活交通ネットワーク計画において複数の運行系統、設備等を包括して目標・効果が記載されている場合は、事業の性質に応じ、当該複数運行系統、設備等を包括的に評価することができるものとされているため、小見川循環バスは2系統（「小見川駅～上の台～小見川駅」及び「小見川駅～城山公園～小見川駅」）を一括して評価します。

2) 事業評価の実施

評価対象：平成26年度地域公共交通確保維持事業（事業期間H25.10.1～H26.9.30）

平成25年度バリア解消促進等事業（事業期間H25.4.1～H26.3.31）

本市では、小見川循環バス と ②小見川乗合タクシー の平成25年10月1日から平成26年9月30日までの運行分、及び、平成25年度に（有）府馬タクシーが購入した福祉タクシーが該当する。

(1) 確保維持事業（地域内フィーダー系統確保維持）

① 小見川循環バス

■小見川循環バスの概要

事業者名：千葉交通株式会社
運行系統：西ルート 26.62 km
運行日：月曜～金曜（土・日曜日、祝日、年末年始運休）
運行時間帯：6時25分～18時31分
運行本数：8便／日
運行車両：日野リエッセ（乗車定員37名） 1台
運賃：大人300円、中高生100円
小学生以下・障害者手帳所持者・・・無料
回数乗車券・・・12枚綴り3,000円（大人のみ）



（平成25年10月1日の改正内容）

- ・小見川地区における乗合タクシーの試験運行の実施に伴い、東南ルートの全部を休止。
- ・西ルートの「共通ルート」として扱われている部分についても同様に休止。ただし、「小見川駅」と「城山公園」間の主たる利用者である小見川高校生の交通手段を確保するため、改正前の時刻表の共通ルートの4便（東南1・2便及び西第5・6便）については、小見川団地方面への運行を削り西ルートとして存続。
- ・共通ルート廃止により減少したキロ程分で、15時台の便を増便。

■目標の設定

【目標】 小見川循環バス：年間利用者数 13,100人

小見川循環バス（西ルート）は、東南ルートの休止により困難となる高校生を主とした利用者の輸送に対応することとし、目標値はその要因を加味した値を設定した。（小見川乗合タクシーは、東南ルートの利用者が円滑に乗合タクシーへ移行されたと見られる値を設定することとし、西ルートで対応する高校生を主とした利用者は除いた値としている。）

■目標の達成状況

【実績】 小見川循環バス：年間利用者数 12,256人

目標値を下回ったので、次頁のとおり内訳（全体・高校生・一般の利用者）の分析を行った。

小見川循環バスの利用状況

※前々回の第14回協議会で2月までの状況を報告しているため、月別は4月以降を記載

(1) 1日平均利用者数（全体）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	年間平均
H24	47.95	59.62	61.80	55.86	26.68	81.00	58.66
H25	40.43	47.00	53.43	51.32	28.90	63.10	50.23
差引	-7.52	-12.62	-8.37	-4.55	2.22	-17.90	-8.43

・西ルート全体の1日平均利用者数は8月を除き減少。

※通算平均は前年10月からの1年間の「総利用者数÷総運行日数」で算出。

(2) 「城山公園」停留所（主に小見川高校生）の1日平均利用者数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	年間平均
H24	26.90	40.86	43.90	37.50	10.05	60.26	39.84
H25	15.43	24.70	29.19	26.82	8.10	36.70	27.88
差引	-11.48	-16.16	-14.71	-10.68	-1.95	-23.56	-11.96

・「城山公園」停留所（主に小見川高校生）の1日平均利用者数は各月ともに減少。

※通算平均は前年10月からの1年間の「総利用者数÷総運行日数」で算出。

(3) 一般利用者の1日平均利用者数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	年間平均
H24	21.05	18.76	17.90	18.36	16.64	20.74	18.81
H25	25.00	22.30	24.24	24.50	20.81	26.40	22.35
差引	3.95	3.54	6.34	6.14	4.17	5.66	3.54

・一般利用者の1日平均利用者数は10月を除き増加。

※通算平均は前年10月からの1年間の「総利用者数÷総運行日数」で算出。

■小見川循環バスについての考察

全体としては目標値を達成できなかったものの一般の利用者は増加しており、減少の要因は「小見川駅」停留所と「城山公園」停留所の間を利用する小見川高校生の利用者数が減少したことによるものである。

循環バス西ルートは小見川高校生の利用の割合が非常に大きく、天候、部活動、テスト期間による短縮授業等の要因により大きく利用が変動するため、目標設定時に予測が困難であった。



生活路線である小見川循環バスが維持され、高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保された。

② 小見川乗合タクシー

■小見川乗合タクシーの概要

事業者名：株式会社千葉交タクシー
運行区域：小見川中央・東・南地区
運行日：月曜～金曜（土・日曜日、祝日、年末年始運休）
運行時間帯：8時～17時
運行本数：9便／日
運行車両：トヨタコンフォート（乗車定員5名） 2台
運賃：大人400円、中高生200円、小学生100円
障害者手帳所持者・介助者・・・無料
回数乗車券・・・12枚綴り4,000円（大人のみ）



■目標の設定

【目標】 小見川乗合タクシー：年間利用者数 4,300人

小見川乗合タクシーは、東南ルートの利用者が円滑に乗合タクシーへ移行されたと見られる値を設定することとし、西ルートで対応する高校生を主とした利用者は除いた値とした。

■目標の達成状況

【実績】 小見川乗合タクシー：年間利用者数 5,031人

■小見川乗合タクシーについての考察

目標値を達成し、休止した小見川循環バス（東南ルート）利用者の円滑な乗合タクシーへの移行は図られたと考えられる。また、路線運行から区域運行に運行形態が変更になったことにより、目的地や自宅がバス停から遠い者にも利用者が拡大したと見られる。



小見川地区に存在する交通不便地域の一部が解消され、高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保された。

目標値は上回ったが、次頁以下のとおり利用状況と利用者登録の状況の分析を行った。

(i) 小見川乗合タクシーの利用状況

■集計期間

平成 25 年 10 月から平成 26 年 9 月まで

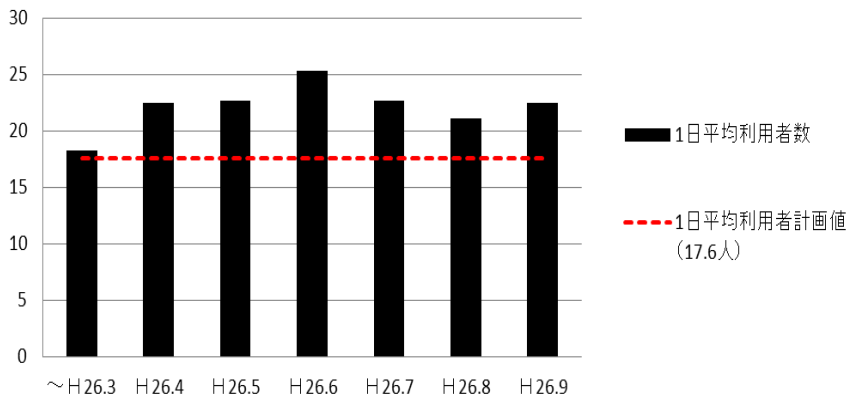
■運行日数

244 日

■利用者数（月別）

	~H26.3	H26.4	H26.5	H26.6	H26.7	H26.8	H26.9	合計
利用者数	2177	473	454	532	500	444	451	5031
1日平均利用者数	18.29	22.52	22.70	25.33	22.73	21.14	22.55	20.62

1日平均利用者数の推移(月別)



- ・H25.10月に運行を開始した後、1日平均利用者数は順調に伸びていたが、最近では安定期に入りつつある。
- ・年間の利用者数は5031人(20.62人/日)であり、計画値の4300人(17.6人/日)を達成した。

※1日平均利用者計画値17.6人は、地域内フィーダー系統確保維持計画（生活交通ネットワーク計画）で目標として設定した平成26年度（H25.10月～H26.9月）の年間利用者数4,300人を基に設定。

■年齢別利用者数

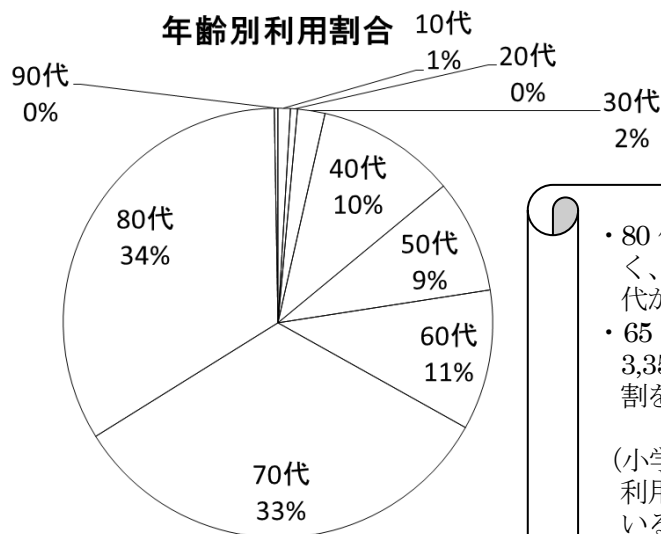
年齢	件数
10代	44
20代	25
30代	98
40代	497
50代	405
60代	501
70代	1,566
80代	1,593
90代	13
100才以上	0
	4,742
介助者	284
小学生以下	5
	289
	5,031

【参考】

65才以上	3,352
-------	-------

※年齢はH25.10.1時点で集計

年齢別利用割合



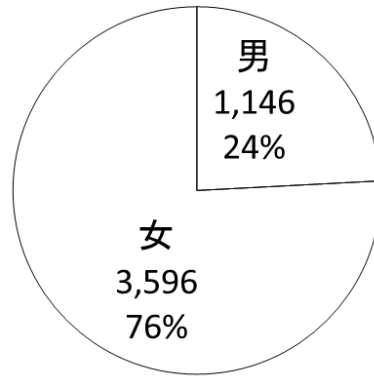
- ・80代の利用者が最も多く、次いで70代、60代が多い。
- ・65才以上の利用者は3,352人おり、全体の7割を超える。

(小学生以下と介助者は利用者登録不要としているため、年齢の判別が出来ないが、利用者の約6%を占める。)

男女別利用割合

■利用者の性別

性別	件数
男	1,146
女	3,596
	4,742
介助者	284
小学生以下	5
	289
	5,031

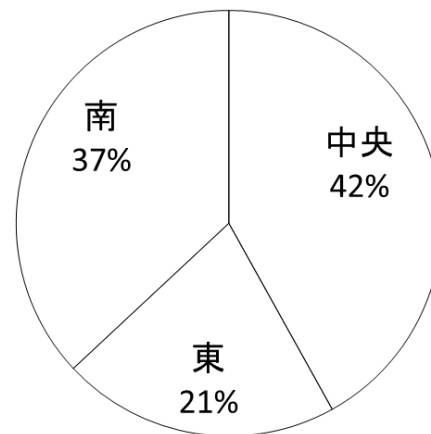


・登録者の割合と同様に女性の割合が高く、男性の2倍を超える。

■住所別利用者数

地区	住所	利用件数
中央	小見川	1,249
	八日市場	22
	野田	231
	本郷	41
	下小川	49
	南原地新田	0
	羽根川	2
	新々田	1
	入会地	393
中央地区合計		1,988
東	阿玉川	331
	下飯田	365
	岡飯田	116
	布野	89
	川頭	10
	北原地新田	91
東地区合計		1,002
南	五郷内	381
	和泉	7
	貝塚	1,076
	阿玉台	279
	久保	9
南地区合計		1,752
上記以外の住所		0
介助者		284
小学生以下		5
総合計		5,031

地区別利用割合

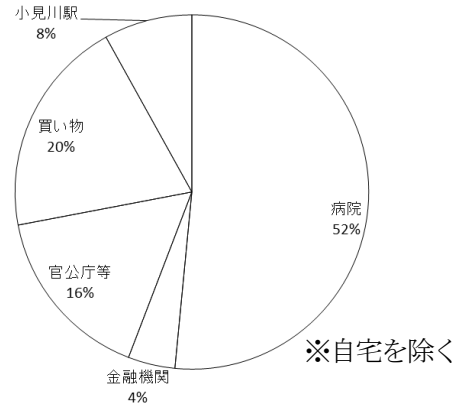


・前回、H26.2 現在で報告した時は中央41%、南41%、東18%だったので、中央・東地区の割合が増加した。
・住所別の利用者数は貝塚、小見川五郷内が多く、逆に全く利用されていない地区もある。

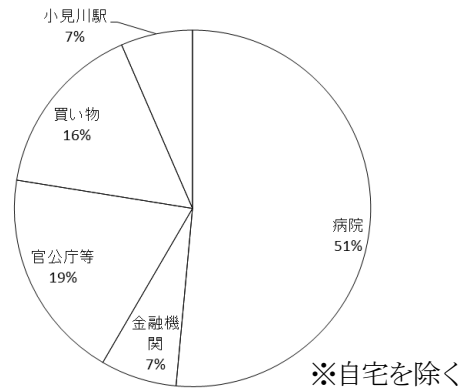
■到着地、出発地別件数

分類	場所	到着	出発
病院	中田内科医院	52	24
	馬場医院	15	14
	本多病院外来附属診療所	4	4
	石橋医院	88	69
	小見川総合病院	702	983
	小見川ひまわりクリニック	262	178
	本多病院	133	107
金融機関	小見川郵便局	46	26
	小見川東郵便局	6	6
	小見川八軒町簡易郵便局	0	0
	千葉銀行	26	15
	京葉銀行	28	28
	佐原信用金庫	0	1
	銚子商工信用組合	4	5
	JAかとり小見川支店	59	34
官公庁等	いぶき館	140	87
	さくら館	57	54
	地域活動支援センター	250	266
	スポーツコミュニティーセンター	0	0
	B&G海洋センター	1	0
	城山公園	10	18
	くろべ運動公園	0	0
	おみがわ聖苑	1	0
	小見川消防署	0	0
	少年自然の家	0	0
	小見川幹部交番	0	0
	香取商工会	8	8
買い物物	アピオ	47	105
	マルハイストア	136	217
	カインズ	176	175
	しまむら	30	36
駅	小見川駅	159	216
	自宅	2,591	2,355
		5,031	5,031

出発地別利用割合



到着地別利用割合

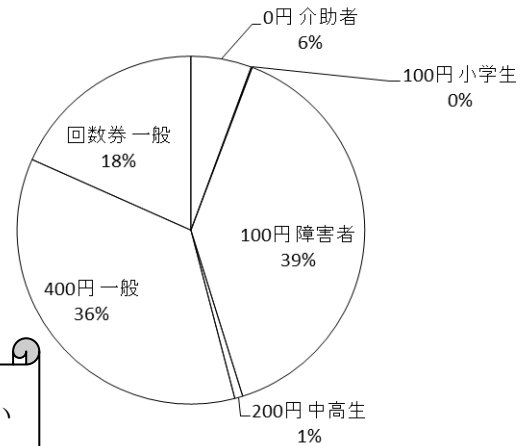


- ・自宅を除き到着地、出発地ともに小見川総合病院の利用が最も多い。
- ・種類別に分類した場合においても、病院の利用割合が50%を超える。
- ・種類別利用割合は、病院、買い物、官公庁等が高くなっている。

■利用料金別件数

金種	利用者	件数	収入金額
0円	介助者	284	0円
100円	小学生	5	500円
100円	障害者	1,984	198,400円
200円	中高生	38	7,600円
400円	一般	1,797	718,800円
回数券	一般	923	0円
		5,031	925,300円

利用料金別件数の割合

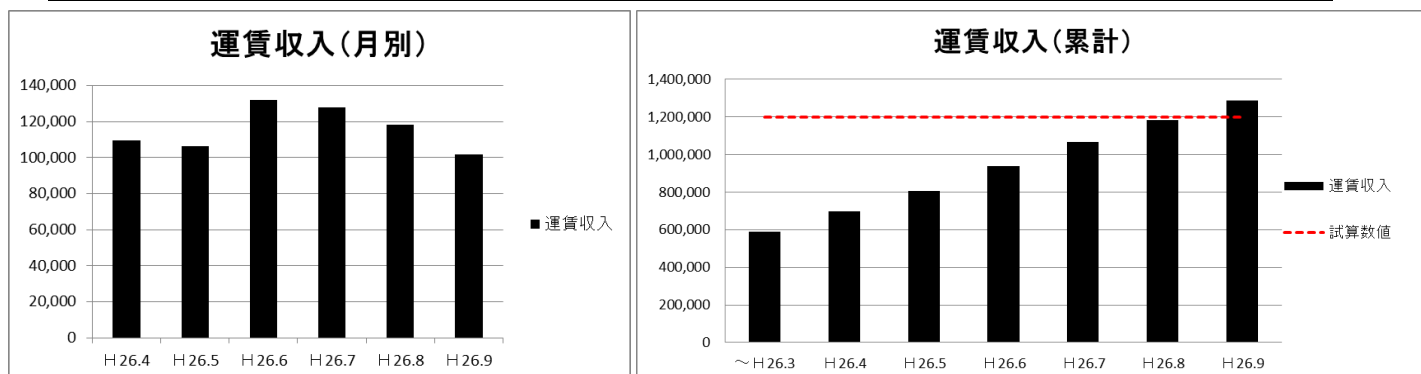


- ・一般利用者（400円、回数券）の割合が54%で最も多く、次いで障害者が39%となっている。
- ・介助者も6%を占める。

■運賃収入（乗合タクシー）

（単位：円）

	～H26.3	H26.4	H26.5	H26.6	H26.7	H26.8	H26.9	年間合計
運賃収入	589,300	109,500	106,200	132,200	127,800	118,300	102,000	1,285,300
累計	589,300	698,800	805,000	937,200	1,065,000	1,183,300	1,285,300	



・運行開始時に想定した運賃収入の試算値は120万円であり、計画していた運賃収入が得られた。

※運賃収入の試算値120万円は、地域内フィーダー系統確保維持計画（生活交通ネットワーク計画）に記載はないが、小見川循環バス（東南ルート）の利用者数と運賃収入を乗合タクシーの利用者数と運賃収入に置き換えて算出したもの。

■運行経費（計画検討時の試算との比較）

～第12回協議会資料より～

	運行委託料①	オペレータ業務 人件費②	運賃収入③	計 (①+②-③)
試算（1年分）	10,000,000	3,200,000	1,200,000	12,000,000
実績（H25.10～H26.9）	11,425,862		1,285,300	10,140,562

- ・当初の試算では、市がオペレーターを2名雇用する想定であったが、プロポーザルの実施によりオペレーターを運行事業者が確保することで1名分のオペレーター人件費で事業が可能となった。
- ・これにより、試算の①+②=13,200,000円から実績11,425,862円となり、1,774,138円の運行に関する費用が減額となった。

■市の実質負担（循環バスのみ運行の時との比較）

期間		運行経費	運賃収入	市の実質負担	増減
H24.10～H25.9	循環バス（東南+西）	16,424,895	2,364,717	14,060,178	3,196,138
H25.10～H26.9	循環バス（西）	8,845,541	1,729,787	7,115,754	
	乗合タクシー	11,425,862	1,285,300	10,140,562	

・もとより、市の負担が増えることを見込んだうえでの乗合タクシーの試験運行の開始であったが、循環バスのみ運行の時より、約320万円の实質負担増となっている。（国庫補助金を除く。）

■小見川乗合タクシー利用状況及び経費等についての考察

- ・月別の1日平均利用者数は順調に伸びてきたところ安定期に入りつつあるが、減少傾向にあるわけではなく、利用が徐々に定着しつつあると見られる。
- ・運賃収入は運行開始当初の見込み額を達成したが、運行経費の1割を超える程度である。割引運賃が適用される障害者の比率が循環バスの時より高くなっており（循環バス=30%、乗合タクシー=40%）、運賃設定を検討する余地がある。

(ii) 小見川乗合タクシーの利用者登録の状況

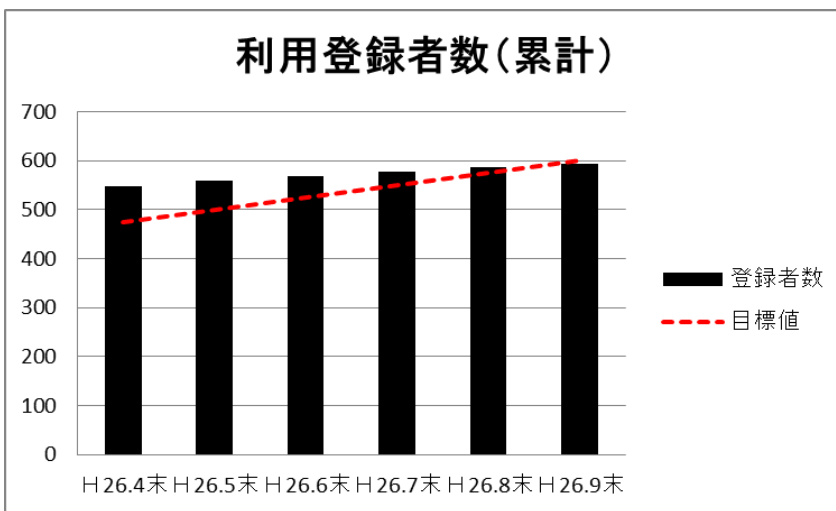
■集計期間

平成 25 年 9 月末から平成 26 年 9 月末まで

■利用登録者数（累計）

	H26.4末	H26.5末	H26.6末	H26.7末	H26.8末	H26.9末
登録者数	547	560	568	578	586	594
増加数	13	13	8	10	8	8
目標値	475	500	525	550	575	600

※利用登録者の目標値は地域内フィーダー系統確保維持計画(生活交通ネットワーク計画)に記載はないが、神栖市を参考に設定。運行開始時で 300 人、以後毎月 25 人程度の登録があるものとして設定。



- ・運行開始後 1 年での目標値 600 人は、実績 594 人なのでおおむね達成した。
- ・しかし月々の増加数は減少傾向にあり、毎月 25 人程度の登録があると見ていた予測の半数以下となっている。

■年齢別登録者数

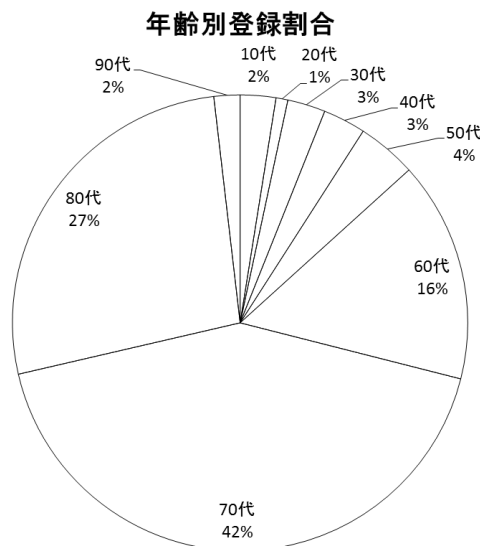
年齢	人数
10才未満	0
10代	15
20代	5
30代	16
40代	18
50代	25
60代	93
70代	252
80代	159
90代	11
100才以上	0

594

【参考】

65才以上	476
-------	-----

※年齢はH25.10.1時点で集計

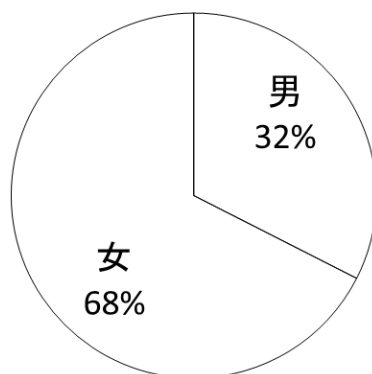


- ・70代の登録者が最も多く、次いで80代、60代が多い。
- ・65才以上の登録者は476人おり、全体の8割を超えている。

男女別登録割合

■登録者の性別

性別	人数
男	193
女	401
	594

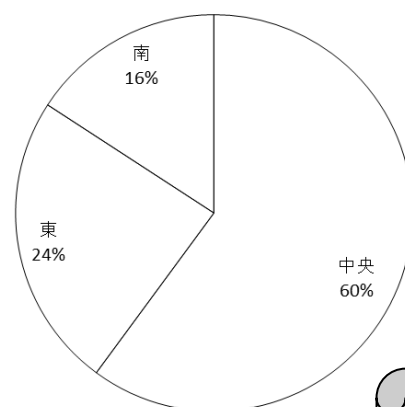


・女性の登録者の割合が高く、男性の2倍を超える。

■住所別登録者数

地区	住所	人口(A)	登録者数(B)	(B)/(A)
中央	小見川	5,783	181	3.13%
	八日市場	963	26	2.70%
	野田	2,111	39	1.85%
	本郷	309	18	5.83%
	下小川	701	14	2.00%
	南原地新田	363	4	1.10%
	羽根川	249	3	1.20%
	新々田	142	15	10.56%
	入会地	619	57	9.21%
中央地区合計		11,240	357	3.18%
東	阿玉川	984	53	5.39%
	下飯田	611	58	9.49%
	岡飯田	218	16	7.34%
	布野	77	3	3.90%
	川頭	112	6	5.36%
	北原地新田	74	7	9.46%
東地区合計		2,076	143	6.89%
南	五郷内	515	36	6.99%
	和泉	120	9	7.50%
	貝塚	370	30	8.11%
	阿玉台	199	17	8.54%
	久保	133	2	1.50%
南地区合計		1,337	94	7.03%
総合計		14,653	594	4.05%

地区別登録割合



・登録者数は中央地区が多いものの人口に対する登録率((B)/(A))は中央地区が3.18%と低く、東南地区はおよそ7%ある。
・住所別の登録率は新々田、下飯田、北原地新田、入会地が高く、南原地新田、羽根川、久保、野田が低い。
・住所別の登録率にばらつきがある。

※人口はH26.10.1時点

■小見川乗合タクシー利用者登録状況についての考察

- ・乗合タクシーの運行開始前に、小見川循環バス（東南ルート）へ職員が乗車し、バス利用者へ直接乗合タクシーの説明等を行うとともに、対象地区住民への利用者登録申請書の全戸配布、説明会を実施したことにより、**運行開始時点で目標としていた登録者数は達成した。**
- ・目標値は達成したものの、**月々の増加数は減少傾向**にあり、毎月25人程度の登録があると見ていた予測の半数以下となっている。試験運行継続を決定した際、利用者登録の啓発を兼ねて周知の回覧、市広報への掲載を行ったが、登録増には結びついていない。
- ・**住所別の人口に対する登録率にばらつき**があることから、今後、啓発を行う際にはこれらの特性も考慮して**効果的な啓発を行うことが求められる。**

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通ネットワーク計画に基づく事業）

平成27年1月26日

協議会名：香取市地域公共交通協議会

評価対象事業名：地域内ライダーシステム確保維持費用庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
千葉交株式会社	小見川循環バス(西ルート)	実証運行の成果を踏まえ本格運行に移行した小見川循環バスを引き続き運行する一方、東南ルートの休止により困難となる高校生を主とした利用者の輸送に対応するため、一部ルートの変更等を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 計画目標の年間利用者数13,100人に対し、実績は12,256人となった	今後も利用状況の把握、利用者の意見聴取を継続的に行い、必要に応じたダイヤ等の見直し・検討を行うとともに、利用促進に向けた取り組みを行っていく。
株式会社千葉交タクシー	小見川乗合タクシー	実証運行の成果を踏まえ小見川循環バスとして本格運行に移行したが、アンケート調査の結果、目的地や自宅がバス停から遠いなど、路線運行の問題点の声が多く寄せられたため、東南ルートを新しい運行形態であるデマンド型の乗合タクシーに切り替えて試験運行を開始した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 計画目標の年間利用者数4,300人に対し、実績は5,031人となった	今後も利用状況の把握、利用者の意見聴取を継続的に行い、運行内容の見直し・検討を行いつつ、運行を継続する中で利用の促進を図りながら本格運行移行の可否決定に向けた諸課題の整理を行う。(特に持続可能な運営設定や、効果的な啓発方法を検討する。)

④事業実施の適切性：

- A：事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された
- B：事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった
- C：事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった

⑤目標・効果達成状況：

- A：事業が計画に位置づけられた目標を達成した（する見込み）
- B：事業が計画に位置づけられた目標を達成できていない点があった（一部達成できない見込み）
- C：事業が計画に位置づけられた目標を達成できなかった（達成できない見込み）

平成26年度 香取市地域公共交通協議会 (千葉県香取市) (地域内ライダーシステム確保維持事業)

地域の公共交通の現況

香取市は、平成18年3月27日に1市3町(佐原市・小見川町・山田町・栗源町)が合併して誕生した。千葉市に次いで県内第4位の広大な市域面積(262.31km²)を有し、東西約21.2km、南北約22.7kmと円形の地勢であることに加え、居住面積が市内全域に分散していることから、都市部と比較して自家用車への依存が高まっている。

事業の目的・必要性

香取市では平成21年2月に策定した地域公共交通総合連携計画に基づき、市内の公共交通不便地域等の解消を図るため小見川循環バスの運行を開始したが、人口の減少、人口密度の低下や高齢者の増加といった社会の変化が進むと、集落が分散している地区や道が狭隘な地区が多い本市では、従来の大型車による路線定期運行のバスでは対応が困難になってきた。そこで、デマンド交通の有用性や持続可能性を検証することなどを目的として、小見川中央・東・南地区において乗合タクシーの試験運行を実施する。小見川西地区においては、同計画に基づき実施した実証運行事業の成果を踏まえ、引き続き持続可能な運行を確保する必要があることから、小見川循環バスを継続して運行し、生活路線としての交通手段を確保・公共交通空白地域を削減、縮小する。

事業の概要

平成21年10月に導入した「小見川循環バス」は平成24年4月から本格運行として実施。東南ルート及び西ルートの2系統で運行していたが、平成25年10月からは東南ルートを休止して、同ルートの運行区域においてデマンド型の乗合タクシーを試験運行している。

【コミュニティバス「小見川循環バス(西ルート)】

事業者名: 千葉交通株式会社
 運行系統: 西ルート 26.62km
 運行日: 月曜～金曜(土・日曜日、祝日、年末年始運休)
 運行時間帯: 6時25分～18時31分
 運行本数: 8便/日
 運行車両: 日野リエッセ(乗車定員37名) 1台
 運賃: 大人300円、中高生100円
 小学生以下・障害者手帳所持者・・・無料
 回数乗車券・・・12枚綴り3,000円(大人ののみ)

【デマンド交通「小見川乗合タクシー」】

事業者名: 株式会社千葉交タクシー
 運行区域: 小見川中央・東・南地区
 運行日: 月曜～金曜(土・日曜日、祝日、年末年始運休)
 運行時間帯: 8時～17時
 運行本数: 9便/日
 運行車両: トヨタコンフォート(乗車定員5名) 2台
 運賃: 大人400円、中高生200円、小学生100円
 障害者手帳所持者・介助者・・・無料
 回数乗車券・・・12枚綴り4,000円(大人ののみ)



面積	262.31km ²	
人口 (H27.1.1時点)	81,065人	
	15歳未満	8,401人
	65歳以上	25,250人
高齢化率	31.1%	
世帯数	30,338世帯	

協議会開催状況

- 協議会の開催状況 2回開催
- ・第1回(平成25年6月26日)
ネットワーク計画を協議
- ・第2回(平成26年3月17日)
事業実施状況について報告

前回の事業評価結果の反映状況

実証運行の成果を踏まえ小見川循環バスは本格運行に移行したが、アンケート調査の結果、目的地や自宅がバス停から遠いなど、路線運行の問題点の声が多く寄せられたため、東南ルートは新しい運行形態であるデマンド型の乗合タクシーに切り替えて試験運行を開始した。西ルートは東南ルートの休止により困難となる高校生を主とした利用者の輸送に対応するため、一部ルートの変更等を行った。

定量的な目標・効果

【目標】

小見川循環バス：年間利用者数 13,100人 **小見川乗合タクシー：年間利用者数 4,300人**
・小見川循環バス（西ルート）は、東南ルートの休止により困難となる高校生を主とした利用者の輸送に対応することとし、目標値はその要因を加味した値を設定する。小見川乗合タクシーは、東南ルートの利用者が円滑に乗合タクシーへ移行されたと見られる値を設定することとし、西ルートで対応する高校生を主とした利用者は除いた値とする。

【効果】

・小見川地区に存在する交通不便地域の一部が解消され、高齢者等の日常生活に必要な連携を推進する。また、交通結節点である小見川駅と結び、鉄道等との効果的な連携を推進することで、地域間の活発な交流を促進し地域の活性化に寄与する。

目標効果の達成状況

【小見川循環バス】 年間利用者数：12,256人

- ・全体としては目標値を達成できなかったものの、減少の要因は高校生の利用者数が減少したことによるものである。
- ・循環バスは高校生の利用の割合が非常に大きく、天候、部活動、テスト期間による短縮授業等の要因により大きく利用が変動するため、目標設定時に予測が困難であった。
- ・目標値は下回ったものの一般の利用者は増加しており、生活路線である小見川循環バスが維持され、高齢者等の日常生活に必要な移動手段が確保された。

【小見川乗合タクシー】 年間利用者数：5,031人

- ・小見川循環バス（西ルート）で対応することとした高校生を除き、小見川循環バス（東南ルート）の利用者は概ね円滑に乗合タクシーへ移行するとともに、路線運行から区域運行に運行形態が変更になったことにより、目的地や自宅がバス停から遠い者にも利用者が増大したと見られる。
- ・小見川地区に存在する交通不便地域の一部が解消され、高齢者等の日常生活に必要な移動手段が確保された。

アピールポイント

バス利用者の現状及びニーズの把握を目的に、「バス乗降調査及びインタビュ調査」を毎年実施し、路線定期運行の循環バスを運行しつつ、利用者数が低迷している現状から地域ニーズに十分応えられていない状況にあるとの現状認識にたち、デマンド交通に移行した場合の有用性や持続可能性等の検討を並行して実施。

今後の改善点

【小見川循環バス】

今後も利用状況の把握、利用者の意見聴取を継続的に行い、必要に応じたダイヤ等の見直し・検討を行うとともに、利用促進に向けた取り組みを行っていく。

【小見川乗合タクシー】

今後も利用状況の把握、利用者の意見聴取を継続的に行い、運行内容の見直し・検討を行いつつ、運行を継続する中で利用の促進を図りながら本格運行移行の可否決定に向けた諸課題の整理を行う。
(特に持続可能な運賃設定や、効果的な啓発方法等を検討する。)

(2) バリア解消促進等事業（バリアフリー化設備等整備）

■香取市生活交通改善事業計画の概要

生活交通改善事業計画の名称	香取市生活交通改善事業計画（バリアフリー化設備等整備事業）
バリアフリー化設備等整備事業の内容と当該事業を実施する事業者	スロープ付タクシー車両の導入（1台）：（有）府馬タクシー ※平成26年度以降は未定
バリアフリー化設備等整備事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額	25年度 福祉車両の導入 総事業費 2,500 千円(100%) 国費 600 千円(24%) 事業者負担 1,900 千円(76%)
計画期間	平成25～27年度（ただし26・27年度は未定）
事業者	（有）府馬タクシー

■車両の概要

項目	内容
車種	日産NV200バネットタクシー（ユニバーサルデザインタクシー）
登録年月日	平成25年10月31日
自動車の種別	小型
車体の形状	ステーションワゴン
総排気量	1.59L
燃料の種類	ガソリン LPG
備考	認定ユニバーサルデザインタクシー 車いす固定装置付き（1基）

（有）府馬タクシーにおいて補助金交付申請等の手続きが行われ、347千円の交付を受けスロープ付きの車両が導入された。現在は、健常者も車いすを要する者も使えるユニバーサルデザインタクシーとして活用されている。



議事2 バス乗降調査及びインタビュー調査について（報告）

バス路線に対する要望・意向の把握のため、継続調査として実施している。前回、第15回協議会では、結果の取りまとめ中だったため、調査実施の概要（調査項目等のみ）を報告していた。今回は、調査結果が別紙「調査結果報告書」のとおりまとまったので、結果の主要な点を報告する。

平成26年度乗降調査及び利用者インタビュー調査

項目	内容
調査対象路線	各路線バス等利用者乗降調査及びインタビュー調査 ①大倉線 ②神里線 ③上の台線 ④旭中央病院線 ⑤成田空港線 ⑥府馬線 ⑦与田浦線 ⑧栗源線 ⑨佐原循環バス（北佐原・新島ルート） ⑩佐原循環バス（大戸・瑞穂ルート） ⑪佐原循環バス（周遊ルート） ⑫小見川循環バス（西ルート） ⑬山田循環バス ⑭栗源循環バス
実施方法	(1) 各路線バス等利用者乗降調査 ①調査対象 ・各路線の停留所で乗降する全ての者 ②調査方法 千葉交通株、関鉄観光バス株、ジェイアールバス関東株、社会福祉協議会に調査期間中、路線バス等利用者乗降調査（うち学生の人数含む）について協力依頼する。 ③調査期間 平成26年5月19日（月）～5月25日（日） (2) 路線バス等利用者インタビュー調査 調査期間のうち、1日は職員が同乗し、路線バス等利用者インタビュー調査を行った。

詳細は、別紙「調査結果報告書」のとおり。